

多文化便り九号

なんとか発行

多文化マーケット実行委員の報告②

私は多文化マーケットで全体のスケジュール管理を担当しました。一番苦労したのは、役割分担の調整です。それぞれペースには、担当を引き受けてくれた人が多いところ、少ないところがありました。少ないペースについては、他の地域の方々にお願ひして、担当を引き受けてもらいました。こうして途中で、急に予定が変更になる場合もあり、その都度、別の人に担当を引き受けてもらうよう調整に奔走しました。当日、快く担当を引き受けてくれた方々もいて、どうにか3日間、乗り切ることができました。

今回の企画を通して学んだことは、コミュニケーションとチームワークの大切さです。学年が違い、全く関わりがなかった学生とどうしたら協力し合えるかと考えた時、コミュニケーションをとることだと感じました。みんなが相談し合いながら作業することで仲も深まり、チームワークが生まれました。そして、全体の作業の効率も良くなりました。今後、学科全体の活動がある時は、学科全学年で話し合いができる場があるといいと思います。十分な情報の共有と時間が必要であると感じました。最後に、協力してくださった皆さんに御礼を述べたいと思います。本当にありがとうございました。学科全学年で多文化マーケットを完成させたことをとても嬉しく思います。

佐藤舞花



中東ブースの石鹸と銀細工

紙粘土の色を活かしたパンダ



私は中国の展示の作成とブースを担当しました。中国ブースでは、中国風の門と屋台を制作し、餃子や月餅、栗やサソリなどを並べました。

今回、人を集めることは容易ではないと痛感しました。中国ブースでは、中国風の門と屋台の制作を企画しました。大規模な展示であるため、作業日を設けて、1、2年生の中国語履修者に呼びかけました。しかし、はじめは連絡がうまく行き届かず、作業日には、2、3人しか集まりませんでした。それから、1、2年生と連絡をこまめに取り、知り合いにも手を貸してもらいました。アジア祭直前の3日間、中国語履修者以外の人たちも手伝いに来てくれて、予定よりも早く完成させることができました。

アジア祭を通して学んだことは人とのつながりの大切さです。学年も履修言語も異なる人たちがアジア祭を通して協力できたことを大変、嬉しく思います。手伝いをお願いしたら、快く引き受けて、手を貸してくれた人がたくさんいました。この多文化マーケットを通して出会った他の学年の人とのつながりを大切にしていきたいです。

3日、私は多文化インタレンシブの報告があったため、中国ブースに滞在する時間は短かったのですが、1、2年生がそれぞれ担当を引き受けてくれたため、なんとか成功させることができました。多文化マーケット関係って下さった皆様、本当にありがとうございました。

平松ちひろ

まずは多文化マーケットのお手伝いをして下さった方々、ブースを見に足を運んでくださった方々にお礼を申し上げます。

私が主に担当した地域はラテンアメリカです。1年間メキシコへ留学をされた先輩と中野先生からソングレロやドク等の雑貨をお借りして展示し、11月1、2日が、ちょうど「死者の日」だったため、展示品の雑貨がどのような存在・象徴であるのかを説明しました。

時間のない中で、作業や人材不足により、「何事も初めからは上手くいかないこと」の現実を改めて思い知らされました。あくまでも、アジア祭は学生が主体となるものです。亜細亜大学の学生や先生方のみ、といった内輪だけでなく、外部の方々をもてなし、みんなで楽しみを味わうのがアジア祭の意義であると思います。そのためには、学生が展示の企画を立案し、先生方のサポートを得るという仕組みを確立させていく必要があると思います。その中で、学生の実行委員を運出し、具体的な準備を進めていくのが理想的な形ではないかと思えます。学生が主体的にアジア祭の準備を行っていくには、「自分たちは多文化コミュニケーション学科に所属しているのだ」という帰属意識が芽生えてくるはずです。今後、みんなで協力し、楽しみながらアジア祭の作業をして欲しいと願っています。

千葉梨奈



ラテンアメリカのブース

編集担当 熊患須